

認知の誤、歪み

思春期、事実認知、価値認知の誤例とその修正

	事実認知の誤 → 修正	価値認知の誤 → 修正
肥 満	標準範囲内にある自己の体重を誤って肥満とみる → 身長体重を正確に測定し、指数で算定し、判断	やせることが美しくなることである → やせれば美しいとは限らない。不健康でガリガリ、肌の光沢も失われてしまう。体の抵抗力も弱まる
性交を求められた (♀)	「彼は私を愛しているから、性交を求めて来た」と誤認 → とは限らない。アソビや単なる性欲充足行動かもしれない	性交を求められることは、自分が女性として魅力的だから → とは限らない。ナンパの相手として、誘いやすいから、のこともある

初 経 年 令 (女)	正常範囲にある自己の初経年令を「遅い」と誤認。周囲の同級生がたまたま早かったから → 中学卒業するまでにあれば正常範囲と、認知を修正	初経年令が遅いことは、「性成熟不全、発達の劣性」とみる → とは限らない。正常範囲内であれば、その人の場合、遅いことが発達に適したタイミングである
左 右 乳 房 発達のズレ (女)	乳房が腫大して来たが、左右のサイズが違う。「異常だ、癌かも知れない」と誤認 → 成人の場合、これは癌の疑いとなるが、思春期には異常ではない	女性のシンボル、乳房の奇形を知られたら、人に見られたら、もうダメ。女性として生きて行く自信喪失 → 一時的なことを劣性とみることはない。劣等感をもつ必要なし
性 器 の サ イ ズ (男)	トイレで友人のペニスを(横からみて)大きいと感じ、自分のものは(上からみて)実際より小さく感じた → サイズを測って正常大であることを知り、錯覚を修正する	「性器が大きいことが男性として価値があることだ」と思いこんでいる → 「機能が正常であるかどうか」が問題で、大きさだけにこだわるのはナンセンスだと、わかる

感情の反発が認知を歪める

認 知	感 情
大学受験を前にして、恋愛どころではないことは十分理解しているつもりだ	でも、あんな言い方で非難されると、素直にきく気がしない
いま、彼との関係を深めることには問題があり、リスクも伴うと考えられる	でも、恋愛感情がたかまり、自分に対し抑制がきかない
相手に対し、思いやりの態度・行動が望ましいと自分自身も日常感じている	でも、自分勝手なことばかり言っている「アイツ」に言われたくない

性行動に慎重になることが大切であることは、友達の例をみて、よくわかっている	でも、あれはいけない、これはダメとうるさく言われると、反発する気になる
タバコが体によくないことは、今まで何回も学習し、その通りだと思っている	でも、自分で吸っている「ヤツ」からそう言われると、腹が立つ
設備もスタッフも揃っているから、その専門の大学を出て、父の仕事を継ぐことが有利であり、合理的だとは考えている	でも、「後を継げ、それしかない」と言われると、「継いでやるものか」という気になってしまう

認知の不協和とその回避

Festinger L によれば複数の認知の間に不整合や矛盾があると感じると、それが本人の態度に以下のように影響する、という。不協和は不快な感じであり、不整合を低減する方向に認知的変化を動機づける。「私は〇〇行為を行った」という認知は、「〇〇行為は私の態度と矛盾する」との認知と不協和である。自分が行ったことを取り消すよりは、合理化する方が容易なので後者を選ぶ。「その行為は私の態度と矛盾しない」理由をさがすか、または「その行為は許されることである」と考える。タバコの害を啓発する情報は非喫煙者の目や耳には入るが、喫煙者は「警告情報に接するのを拒否する」傾向がある。

情報により、リスク認知が深まり自己の喫煙行動との不協和が増大することを回避している、とみられる。たまたま健康で（遺伝子的特性により）長寿を全うしたヘビースモーカーのケースをさがし出し、それを話題にする喫煙者が、よくあるという。健康に関するリスクの啓発は、「最もそれを必要としている人」にとどかない、受け容れられないことが問題である。

学校で、「売買春や不倫によってエイズが移りやすい」と教えると、交際相手との性関係では「かえってコンドームを使わなくなってしまう」こともある。性感染症は不道德者になりやすい病気だというイメージを与えるからである。互いに信頼し、愛しあっているカップルにとって、その相手に対する認知と「コンドーム使用を必要とする対象である」との認知は不協和であるから。

認知を変える

ABC理論 エリスA

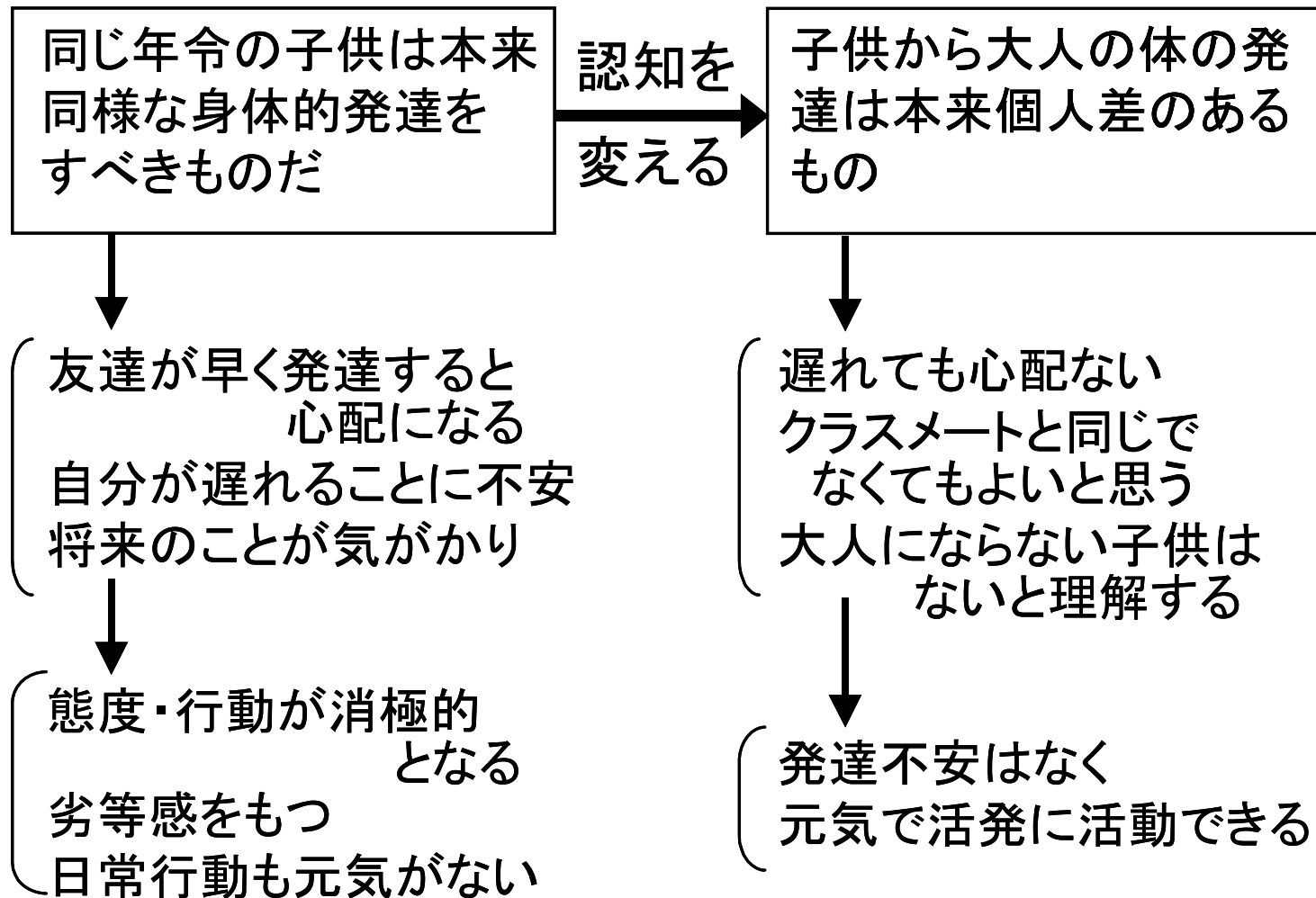
ある出来事（A）があつて、こういう結果（C）になったと人は言うが、実はそうではない、とエリスは主張する。出来事（A）を、その人がどう思うか、どう見るか、どう受け取るか（B）によって、結果（C）は異ってくる。

(A) Activating Event (B) Belief (C) Consequence

A → Cではなく、A → B → Cである、とするのが本理論で、結果（C）は本人の認知（B）次第である、ことを教えている。認知を変えることは、（A）いままでにはない気付きがある、（B）異った角度から物事をみる、（C）視野が広がる、（D）判断の基準が変わる、（E）状況に対する新しい分析をする、（F）新しい意味づけをする（理由づけ、解釈）、（G）新しいアイデアが湧く、（H）新しい行動を促す、行動を動機づける。行動の方向性を考える。認知を変えることによって適応行動を実践させる、心身の健康を増進し、QOLを高める等の手法が活用できる。

認知変容とその結果

身体の発達早遅



思春期の我が子をどうみるか？リフレーミング

反抗期  自立期

いままで親の言うことをよく聞き、親に頼っていた子供が、この頃親の言うことに耳を貸さなくなった。

我が子が何を考えているのか、全くわからなくなってしまった。

親の考えや親の願いとは、別の行動をし、驚かされる。

親の注意やアドバイスを無視し、時には親として怒りを感じることもある。

親は子の態度の変化に落胆し、どう対応してよいかわからない。

相互非難 親子の対立関係と

「子は早晚、親から離れて行くものだ」という認識をもつ。

自立したい気持ちをうまく態度・行動に表せないとする。

自分でできることが次第に増え、自分の考えをもつようになるので、親に対し自己主張して来る。

↓
何々ができるようになったことをプラスに評価し、親としてよろこぶ。ほめて、生長の芽を伸ばす。

自己主張を創造的自立に向ける。自分の行動結果に責任をもたせ、自律、自己コントロールをさせる。

先天異常(視覚例)

障害とみる

認知を変える

個性とみる

障害は劣性である。
劣性をカバーするため、
努力し、対策を講ずるが、
健常者と同様の人生を送
るのは困難と思う。
運命的な見方をする。

↓
行動が消極的となり、活動
の内容が限定されやすい。

聴覚や嗅覚、触覚は健常者
より鋭敏だと思う。
他者と異なる特性をむしろ
プラスに取り、プラスに活か
すような人生の可能性を求
める。

↓
希望をもって、明るい人生。
生き甲斐をもって積極的に
生きる。

認知を変える手法

(A)(環境を変えて) (例)日常自宅で親子が話しあう機会はほとんどなかったが、家族旅行をした旅先では雰囲気が変わった。子は親を、親は子を血の繋がった連帯的な存在と見て、今後の問題を一緒に考えることができた。

(B)(立場を変えて) (例)いままで、クラスの行事や諸活動に非協力的で、何かにつけ横車を押す存在であったN君が、今秋の文化祭で委員、特に統括する要職になると、仲間や学校内外に対する態度も行動も一変した。計画的で、資料を集めたり学校外の団体に話をつける、目をみはる推進役を果たしている。

(C)(視点を変えて) (例)私(♂)はいままでテレビドラマはあまり興味がなく、まれにしか見ることはなかった。どうせ「つくり話」、見るだけ時間の無駄。スポーツ番組の方が面白いし、ストレス解消になって、はるかにいいと思っていた。しかし最近視点が変わって、しばしば見るようになった。テレビドラマを見ると色々な人々の生きざまがあり、対人関係、コミュニケーション スキルを学ぶことに役立つ。

(D)(目的を変えて) (例)ふるさとの民芸品研究サークルに属している私は、友人のT君と先週の日曜日近県のK市の催物に出かけた。期待して出かけたのに作品の多くは既知のもの、コマ

シャルカラーの強いものが多かった。会場が地図では解りにくく、田舎道をかなり歩かされ、くたびれた。趣味の研究目的では無駄な1日となってしまったが、途中T君と色々な話ができ、親睦を深めることができた。又ハイキングコースのような道を長時間歩いて健康によかった、と考えればよい。

(E)(仮に役割を演じて) (例)ある人の役割を仮に演じてみて、その人の気持がわかり、その人に対する私の気持も変わった。ロールプレーで転校生の役割を演じてみて心細い気持や「親切に教えてくれる友達」に対し感謝する転校生の気持がよくわかった。今までは「ピントのはずれたことをしている、めざわりな奴」と思っていた。日常の役割を交換して演じてみることにより、(ロール、リバーサル) 相手と自己両方に対して今までもっていたイメージが大きく変わった。

適応的行動をもたらす認知の変容

(A)「自由」の認知

- × 自分勝手なことをする → ○ 将来の自己選択肢を多くする、多く残す

自由勝手にふるまう乱脈な性行動を自由と誤解しやすいが、その結果望まない妊娠や性感染症となれば、将来の家族計画、自分の子供をもつ選択肢を失う可能性があり、又「将来、よい性パートナーを得る選択肢」を減少させることになる

(B)「規範」「法」「ルール」の認知

- × 規範により、自分の行動が制限される → ○ 規範が自己の安全を守ってくれる

法やルールのない社会では、(性が解放されていると誤解しやすいが)身の安全が保障されていない。無法地帯では性犯罪、性被害が多発する。規範意識の欠如は他害的性行動やセクシャルハラスメントを起こしやすい

(C)「権利主張」の認知

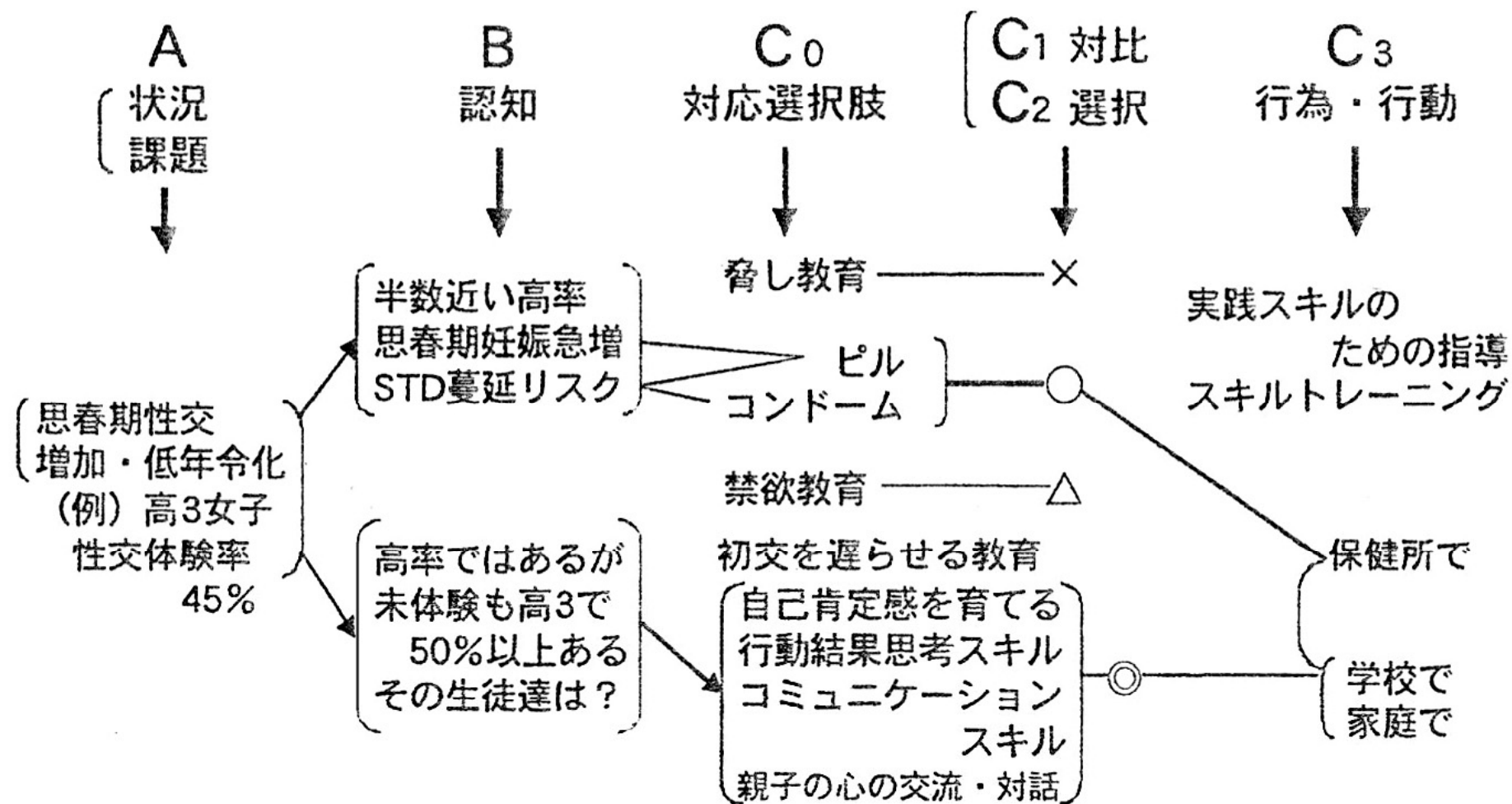
- × 自己の利益や「快となること」を主張する → ○ (自己に関し) 正当なことを主張する

松本清一によればRightの邦訳は「権利と正義」(「右」は別項)があるが、両者の意義は連結している。

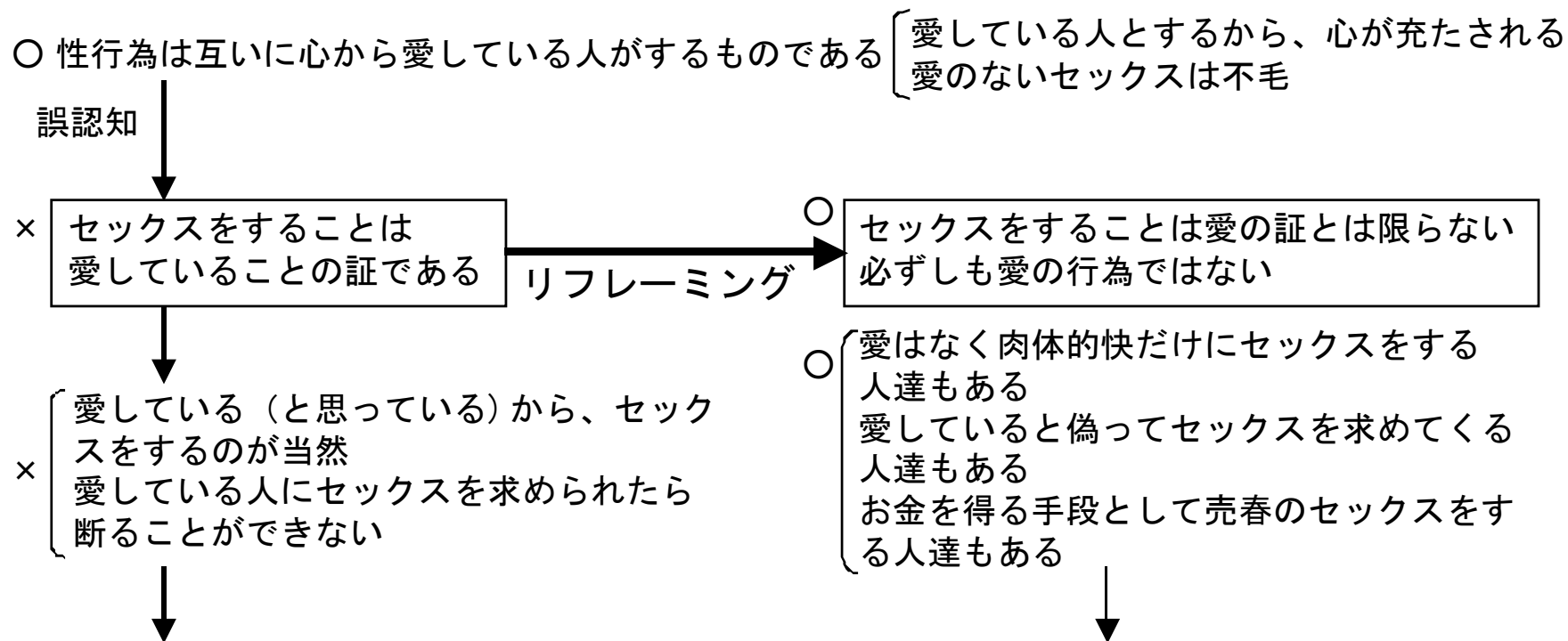
性行動や男女の生き方に関し、客観的に正しいことを主張するのが性の権利である

(D)「責任」の認知

- × 自己の発言・行動の非を追求されること → ○ その人の発言・行動に伴って生ずる当人の負担、「言った以上、行動した以上、知らないというわけには行かない」。
- 「責任、責任と言われてうるさい」と誤解するが、相手が責任をもつ人物だから安心してつきあうことができる



愛と性について認知学習



セックスをした結果、その後の2人の愛の関係が続くとは限らない
相手にアソばれて、捨てられることも、相手の自分への態度が不誠実で、セックスする前とは変わってしまうことも、相手に裏切られたと感じて対異性不信となってしまうこともある

相手をよく見分ける必要がある

それには

- ↓
- 対面的に話しあう
交際の期間を要する
コミュニケーションスキルがある
相手を判断できる
思いこみの非現実的イメージをもたない

○「心からあなた(私)を愛しているからセックスをしよう」と彼は言う。愛の証し(あかし)だと思おうと断れない

リフレーミング

最初の性交を求めてくる時の彼の態度から、彼が「心から私を愛している」か否かがよく解る。鑑別点となる

性の快楽認知のリフレーミング

性の快楽は、本能的欲望の追求、これを教えることは道德教育に反するようにみられていたが、以下のようにリフレーミングすることにより、Human Sexuality の要項と位置づけることができる(筆者の理論)

1 性の快楽 Spiritualization

性の快楽を肉体的官能的快Physical Pleasureに局限しやすい過去の認知から脱却して、心のよろこび、安らぎと豊かさをもたらす心情面を重視する。

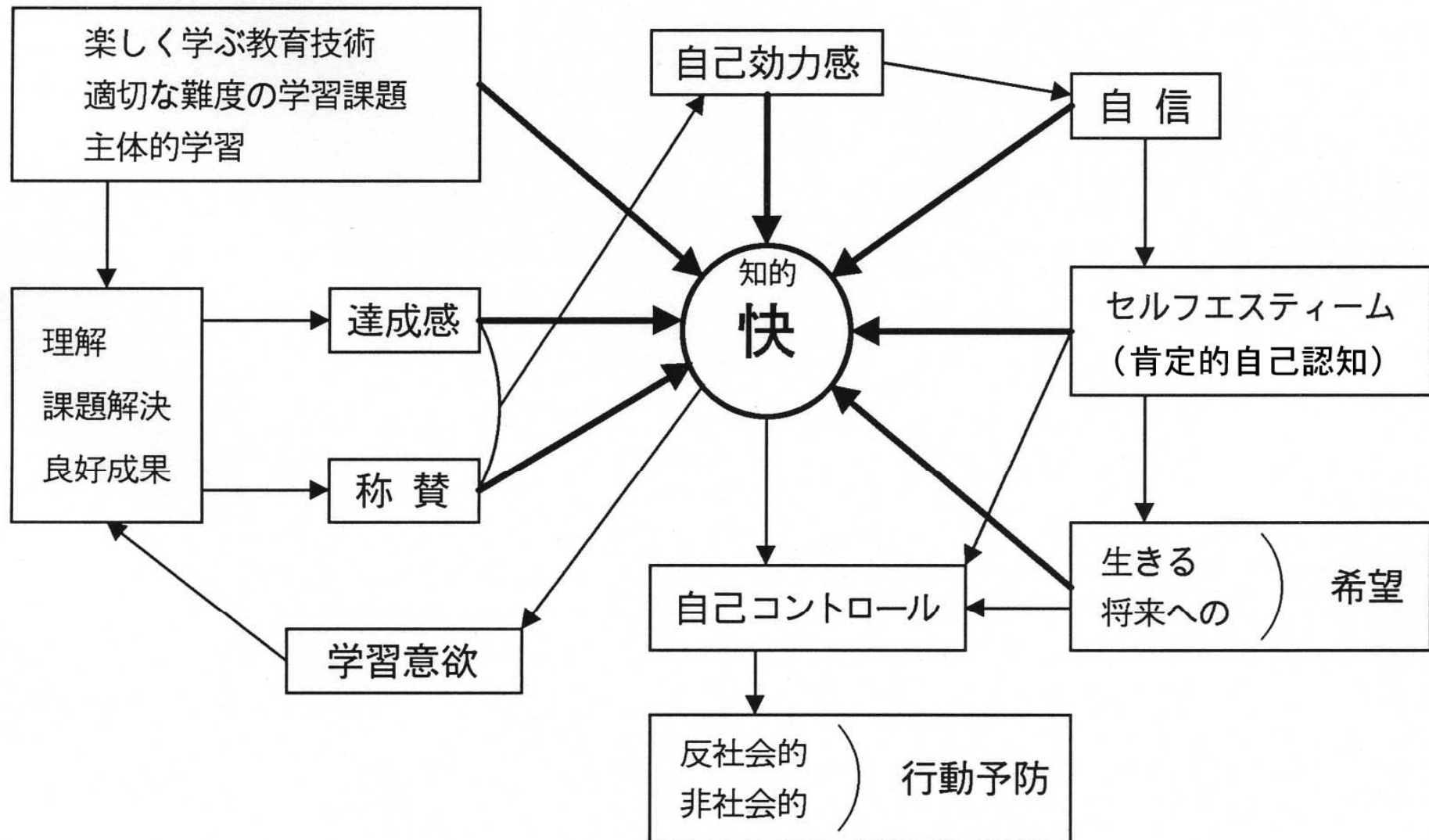
2 性の快楽 Socialization

快行為による自己の快楽だけでなく、パートナーとよろこびを共有することを快と感じる。愛する人と共有するから快が2倍にもなると認知する。相手に対する思いやり、相手を大切にする気持があり、コミュニケーションにより、それが十分通じあう関係になって、共有が可能となる。

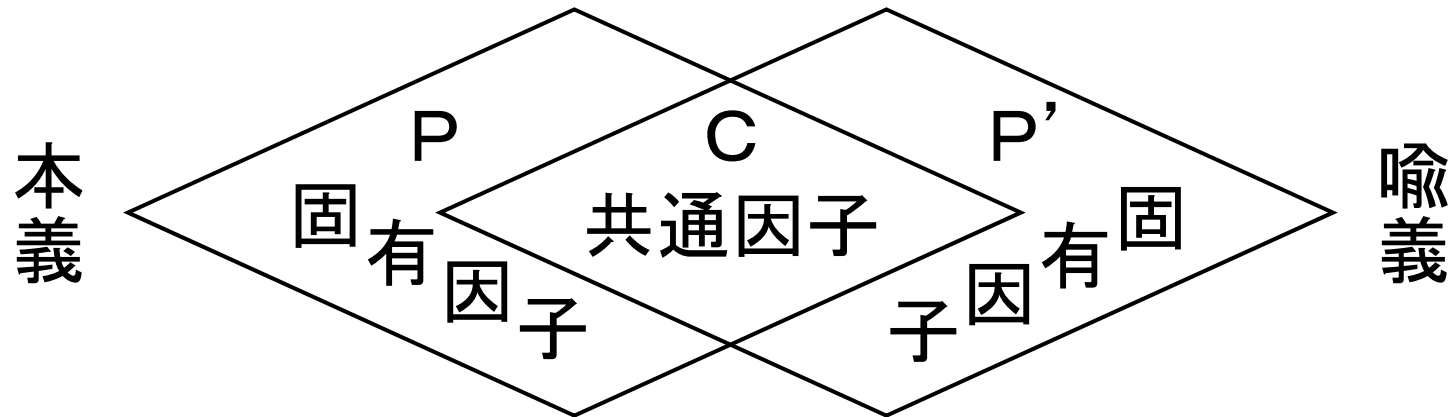
3 性の快楽 四次元化

我々は三次元の世界に生きているが、時間の経過をこれに加えて認知することが四次元化である。現在の快楽だけでなく、今後の人生に於けるトータルな快を志向して生きることである。刹那的快楽を味わっても、将来の不快・苦痛をもたらす行為であれば、それは快の追求とは言えない。望まない妊娠・妊娠中絶、性感染症等のリスク。又身体的リスクの不快はなくても、相手との人間関係の破綻、相手の裏切りによるトラウマ等は、性行為を伴う場合と伴わない場合ではその差が大きい。四次元的認知に基づいて性行動の選択、性パートナーの選択が肝要となる。以上のリフレーミングによる性の快楽認知は、性のモラル教育と矛盾しないものであることを強調したい。

セルフエスティーム肯定的自己認知



比喩を使った教育法



A(本義)をB(喩義)に喩える

「AはBのようなものだ」と話す。A、Bに共通点がある。説明を受ける側もBについて知っていることが前提である。Bの知識、学習者がもつBに関する認知構造が活かされてAを、よく理解できる。類似点(共通因子)が重要であり、A、Bそれぞれ非共通点(固有因子)もある。非共通点が少ないほど良い比喩とは限らない。虎は猫のような動物と言えは形態特性を理解させるには役立つが面白味はない。異なる物が予想外に共通点があることに注目することに興味がある。

I 比喩の活用

1) 花は植物の生殖器



(本義)

(喩義)

人は永遠に生きることはできない

どんな植物でも何時かは枯れてしまう

(人は結婚して子供をつくることによって生命を継承する)

(植物は花を咲かせ種ができ、種が発芽して生命を継承する)

(女性の卵子と男性の精子が受精して胎児がつくられる)

(花のオシベの花粉がメシベに受粉しそこから種ができる)

(人の生殖器は精子をつくる精巣、卵子をつくる卵巣、胎児を育てる子宮)

(花のオシベとメシベに、言わば花の生殖器である)

人の生殖器は植物の花に相当する

〔 膣に送りどけられた精子は膣 → 子宮 → 卵管と細い管の中を通過して卵管の奥に到達し、卵巣から送られて来た卵子と出会って受精する。 〕

本義

喩義

〔 オシベの花粉がメシベに付くと花粉管が延び、オシベの精細胞はその中を通過してメシベの奥にある卵細胞と出会い受粉する。 〕

なぜ「違う花」のオシベメシベが 受粉するか

（兄（弟）と姉（妹）が結婚して子供をつくることはない。

本 ← 喩
義 → 義

（1つの花にオシベメシベの両方がある花（例：タンポポ）とオ花にはオシベ、メ花にはメシベとわかれている花（例：キュウリ）がある。

（1つの花にオシベメシベが両方ある花も他の花のオシベの花粉がメシベについて受粉する。

（同じ家族の兄（弟）と姉（妹）の間では結婚しないのが社会的慣習である。法律により兄弟姉妹の結婚は禁止されている。

本 ← 喩
義 → 義

（同じ花のオシベの花粉では、花粉管が伸びない。オシベの花粉とメシベの花粉のできる時期がずれていて、同じ花の中で受粉しないようになっている。

それは何故だろうか？

（人は顔かたち、性格等1人1人違っている。環境の変化や病気に対する抵抗力も1人1人違う。その違い（個性）は遺伝子の違いによる。

—————

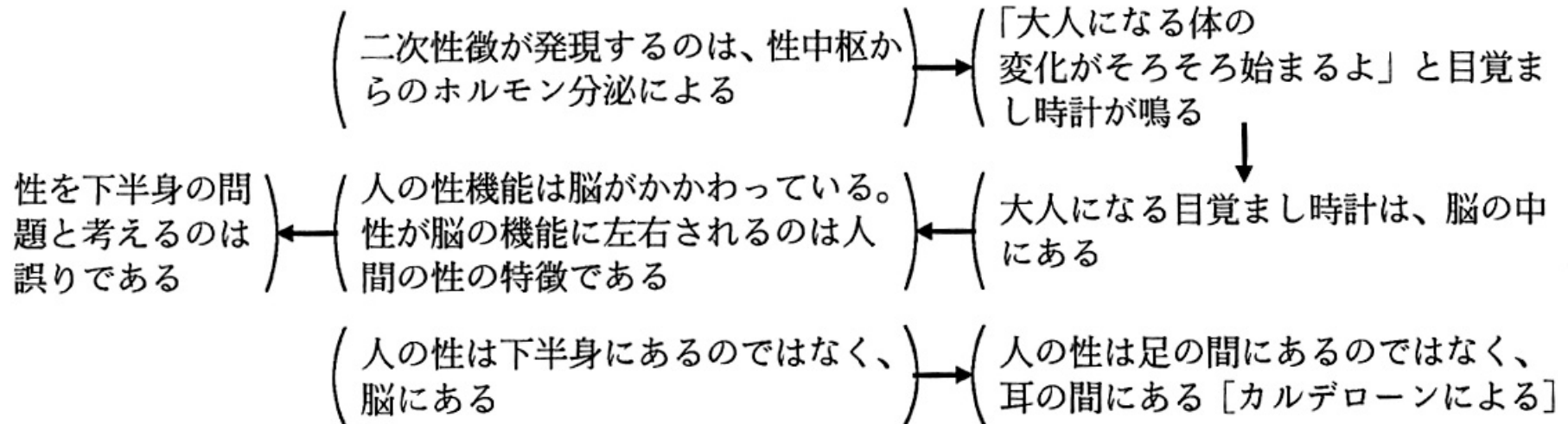
（動物植物は同じ種類でもその形、性格が1つ1つ違っている。環境の変化や病気に対する抵抗力も1つ1つ違う。その違い（個性）は遺伝子の違いによる。

異った遺伝子の組みあわせによる色々な個体があれば、環境の変化や病気の流行があっても、その生物が生き残ることができる。

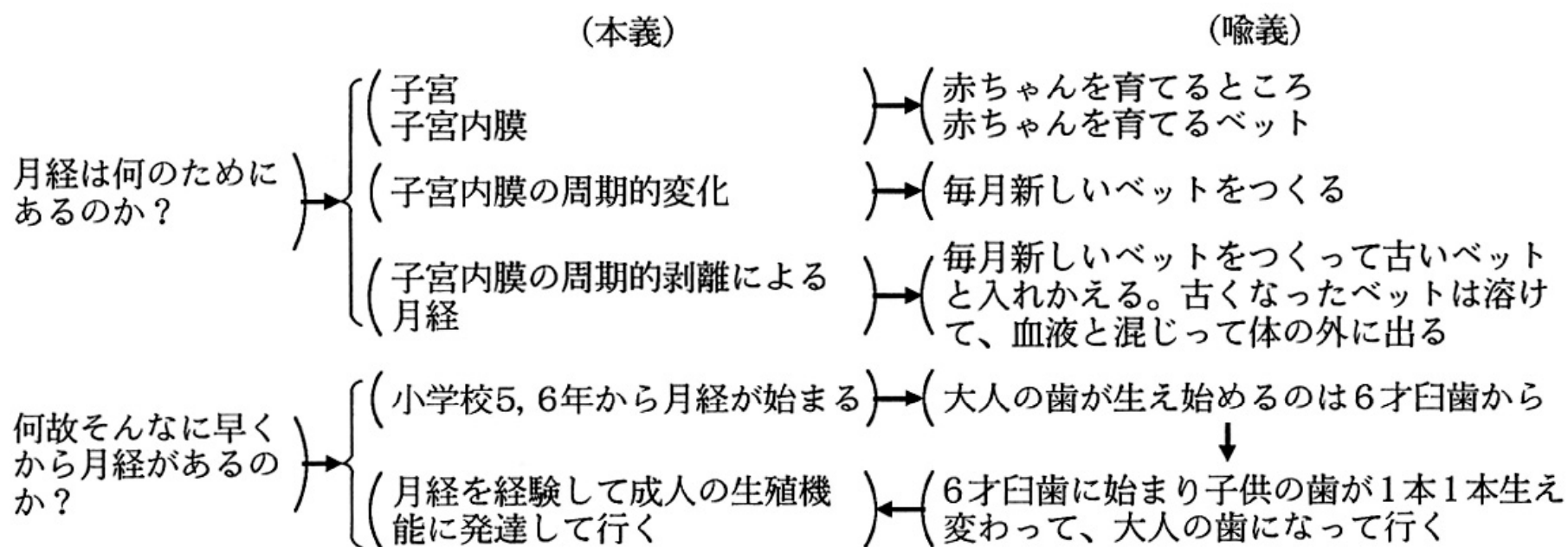
2) 二次性徴教育と脳の性中枢

(本義)

(喩義)



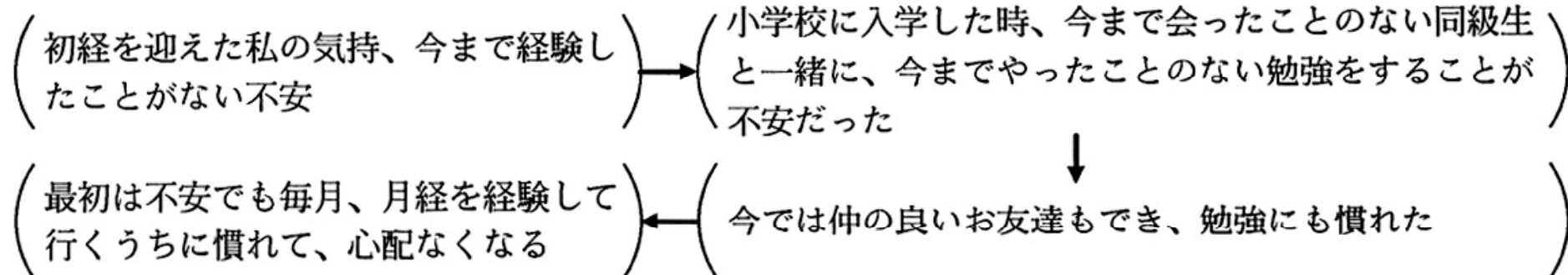
3) 月経の理解



4) 初経の不安

(本義)

(喩義)



5) 初経が遅い、早い

(本義)

(喩義)

(私より先に初経があった友人
友達より初経が遅かった私)

(7月に咲いた朝顔
8月に咲いた朝顔)



初経が遅くて
も心配ない

(初経が早い方が生理機能が良
いという意味ではない)

(7月の朝顔の方が
8月のより美しいとは限らない)

(私は小学校3年末に初経を迎
えてしまった)

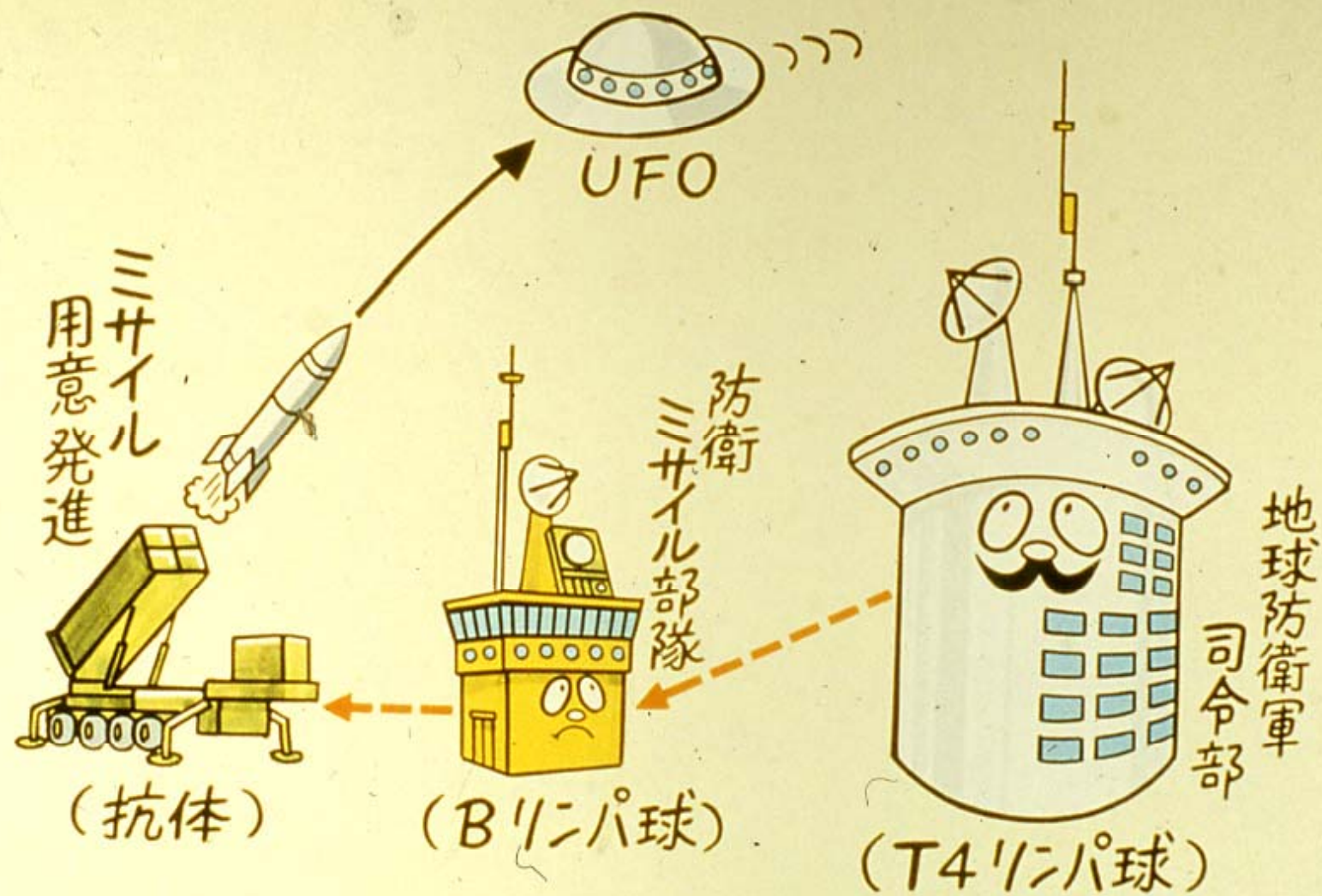
(日曜日の午前中親類の家に遊
びに行くのに、一汽車早く乗
ってしまった)

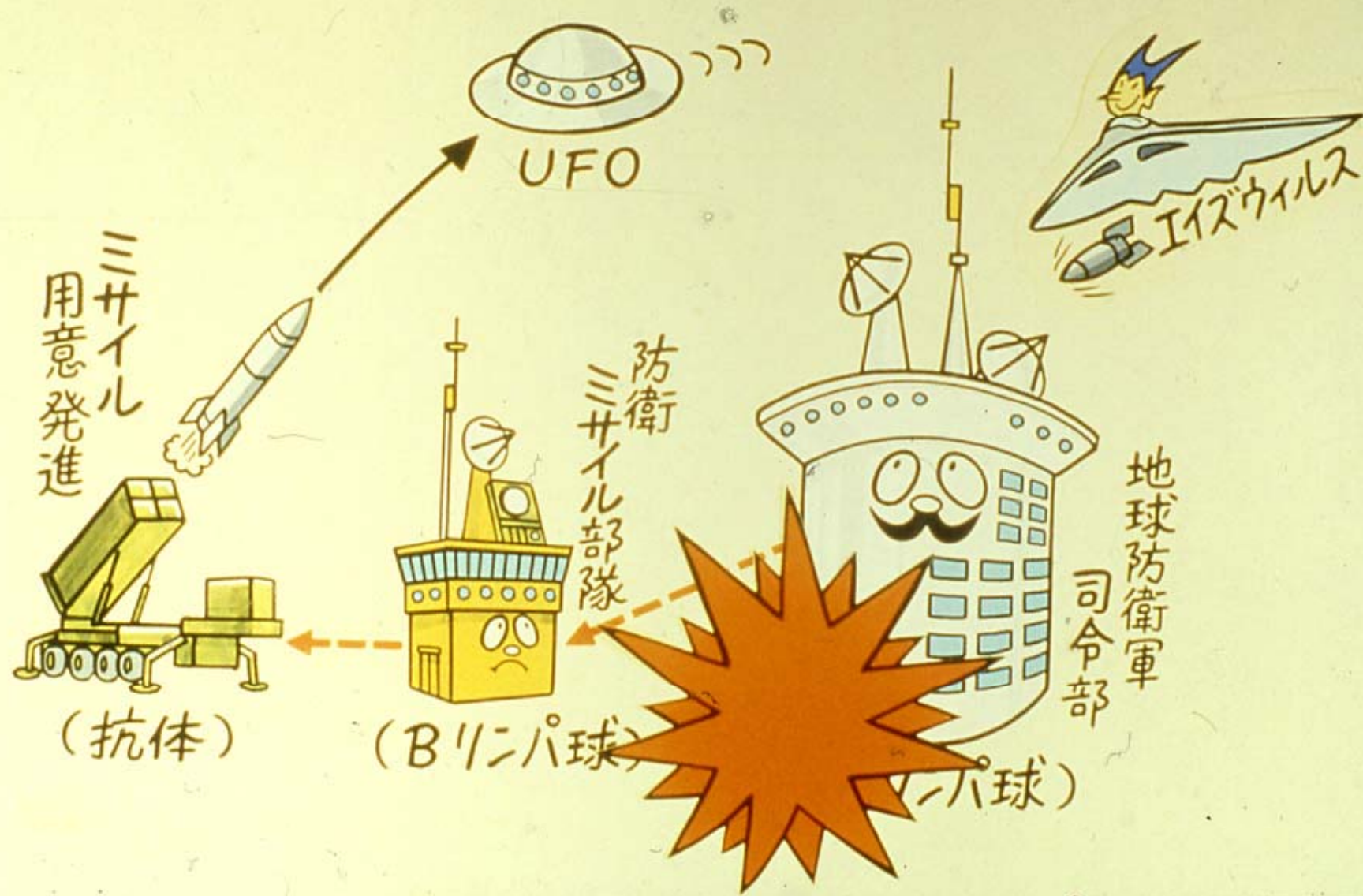


初経が早くて
も心配ない

(少し早いから月経を遅らせる
薬を1年間だけのむ)

(相手の家へ約束時間よりあ
まり早く行かないよう、駅
前の店でコーヒーを飲み時
間をつぶしてから訪問した)





比喩固有因子の転移

比喩を使うことにより喩義固有因子のイメージが本義に転移し、
本義のイメージに影響を及ぼす
認知を変化させ、対応行動も変容させる

例1 HIVの無症状感染者はAID患者数の10数倍

- 氷山に喩える。水面上の容積より水面下の容積がはるかに大きい → 単なる警告
- × 台所でゴキブリを一匹見つけた。実際は10匹前後のゴキブリがいる → 感染者差別

例2 コンドーム

- お守りの袋に入れる → 生命尊重器具イメージ
- × トイレの紙と一緒に扱う → 排泄器具イメージ

例3 初経の早い人遅い人

- 早咲き、6月の朝顔の方が美しいとは限らない → 個性
 - × 背が高い人、低い人があるように
 - × 足の速い人、遅い人があるように
- } → 優劣感

性行動選択の基礎となる一般的ライフ スキルを 他の課題で学習する

- ① 何が起こるかを予測するための情報にアクセスし、情報を得て、「予測に基づく適切な対応」の準備をする
→ 天気予報を参照して朝出がけに傘をもって行くかどうか、自分で判断する
- ② 過去を想起し、現状を見て、「この先どうなるか？」と考える習慣をつける
→ ストーリーを途中まで聞かせ、この先どうなるかを推測させる。その後でストーリーの続きを紹介し、如何なる行動選択が将来どう影響するかを学ばせる
- ③ 相手が次に何をするか、する可能性があるかを予想し、それに対応する行動選択をする
→ 碁、将棋、野球のピッチャー・バッターの選球

④ 多くの選択肢のあることを知り、その中から最良のものを選ぶ。選択肢を比較し長所がより多く、短所のより少ないものを選ぶ
出す

→ 買い物のシミュレーション学習。より品質がよく、より価格の安いものを選んで買う

⑤ タイミングを判断する。早い方がよいこと、遅い方がよいこと、至適タイミングが特に重要であること等である。

→ 農作物の種をまく時期、親から経済的に独立する時期は早からず遅からず適時がある。それを選ぶ。病気が治るのは早い方がよい、死は遅い方がよい(QOLが肝要なのはいうまでもないが)

⑥ リスクを予防するために、A.リスクの原因となるもの、B.リスクに巻き込まれる機会や経過、C.リスクを受ける側の状態を知る必要がある

→ 感染症に例をとると、A.病原微生物、B.感染経路、C.被感染者、経口感染例(O157、赤痢)、気道感染例(カゼ、インフルエンザ)で学ぶ

⑦ 健康に有害なことは、誘われても、はっきり断ることができる

→ タバコ、有害ドラッグ、未成年の酒に関する指導と同列に進める

⑧ 生命尊重の学習

→ 植物を育てる、ペットをかわいがる。親類や近隣の家の子に接し、そのかわいさをハダで感じる

⑨ 思いやり

→ 困っている人の気持ちになって、やさしい言葉をかける。弱者や病者、高齢者を支援する、ボランティア活動に参加する

⑩ 自己抑制、我慢するトレーニング

→ 集団行動で、待つ時間の体験。皆で仲よくやっていくために、それぞれが自己の欲求を抑え、我慢しあって調整する。我慢した結果、後でよいことがあった体験

性行動自己コントロールの目的スキル教材として ケース提示

ケースの提示は事象や人間関係について、原因と結果が経時的に展開する。「それから、どうなるのかな？」と話の筋道を追う興味で生徒達がフォローする。登場人物の態度、行動、それに対する相手の反応、新事態の発生、状況の進展等に引きつけられる。行動選択の適否により「本人がその後どうなるか？」その事実が何よりの教訓となる。結果の事実を示すだけで解説の蛇足を加えない方がよい。主体的判断の芽をつむことになる。「意図的な作り話」と生徒が取れば効果は失われるからである。安全、健康、成功、繁栄、親和等人生の幸福を求める欲求；事故、災害、病気、被害、失敗、貧困、不和等人生の不幸を回避したいと思う願望と連動させることができれば、適応行動へ向かう強力な動機づけとなる。以下活用例を示す。

女生徒 214名(高2)

男生徒 209名(高2)

それぞれを2群に分け

I 群 女子 82名 男子 81名には

通常の性教育授業を行った。思春期男女の性生理と性心理、性成熟。思春期妊娠、思春期性感染症の統計と本人に及ぼす心身及び社会的影響、望まない妊娠と性感染症の予防法と思春期男女の人間関係のあり方等

II 群 女子 132名 男子 128名には

上記の学習に加えて思春期妊娠のケース、妊娠に至る経過男女関係と、その結果について紹介する教材を加えた。授業前後にアンケートをとり、望まない妊娠を予防する対応の変容について、A群B群別に比較した

女生徒への発問

愛しあっている高校生の彼に、「愛しあっているのだから、性関係をもとう」と求められた

- A. 今はまだするつもりはない、と断る
- B. 避妊をして性関係をもつ(コンドームを使わせて)
- C. その時にならないと、わからない
- D. その他

男生徒への発問

愛しあっている高校生の彼女とデートしてキスをし、ムードのある雰囲気となった

- A. 自分にブレーキをかけ性関係はしない
- B. 避妊をして性関係をもつ(コンドームをつけて)
- C. その時にならないと、わからない
- D. その他

実は原案では(D)は「避妊をせず性関係をもつ」であったが、学校側の反対で[その他]となり()内に自由に記入させることとした。内容は予想通り原案に近いものが主であった。

中3の妊娠例

中学3年のN子は母親に連れられて産婦人科医院を受診した。第一声は「先生、生理がなくても妊娠とは限りませんよね」であった。「妊娠以外の原因で無月経になった」と思いたい気持だったのであろう。最終月経は3ヶ月前であった。「妊娠4ヶ月に入ったところです。お小水の検査、妊娠反応も陽性です」と医師に告げられると、N子はその場で泣き出す始末だった。帰宅して彼にメールした。「妊娠した」と告げ、「今夜会いたいから折り返しメールを」と送信した。「友達と遊びに行って帰りが遅くなるから今日はダメ」が返信であった。次の日、学校で彼に相談すると「おろすしかないだろう。それしかない」と冷たい言葉。N子が彼の態度をなじると、「おろす金、おれも半分出すから」と言う程度だった。彼への怒りと男性不信、中絶手術の恐怖、中絶を強要する母親、「男性には気をつけろと言ったのに、親の言うことを聞かないから、こんなことになったんだ。相手は誰だ。ぶんなぐってやる」とわめく父親。

つわりの症状で食欲がなく、体力がおとろえて行く苦痛。何不自由ない幸せな中学生の生活から、N子をめぐる家族の生活は最悪の状態に急変した。更に加えてN子は、言葉につまる、どもる等の言語障害、頭痛、めまい、手足のしびれ等の症状を訴えた。強度のストレスによる心身症である。N子は性関係をもっても「妊娠するという気がしなかった」と言う。妊娠したという現実が自分で受け容れられない。しかも、「性行為を求めてやさしくしてくれた彼」と、「妊娠を告げた後の冷たい彼」が不連続で、それが一番ショックだった、とナースに打ちあけた。打ちあけた後、N子の心身症症状は軽快した。妊娠に至るまでの経過もナースに語った。

N子の彼のS男はレギュラーではないがサッカー選手で背が高く、成績もほどほど、女生徒に「もてる男」だった。しかし、無責任なプレーボーイだといううわさも流れていた。つきあっている女生徒が数人あり、当初N子は声をかけられることもなかった。

昨春秋の文化祭の委員をS男が担当し、N子が手伝ったことで言葉进行かわす機会があった。これが縁で2人は親しくなり、休日に誘われて一緒に東京へ出かけることが何回かあった。S男は時々、N子の心をくすぐる、やさしい言葉を口にする。2人で東京に出かけた時、キスを交わしたことはあったが、性関係には至らなかった。デートした時N子が気になったのは頻回にS男にメールがかかり、女性かららしいことは明らかであった。「もてる男だから仕方がない」と、割りきることにした。しかし、S男のウソが時々ばれることがあり、それが不安の種であった。S男は上手にとりつくろうので、何とか、おさまっていた。S男はその後次第になれなれしくなり、N子の体にさわるようになった。N子はそれを愛情表現と受け取り、むしろ満足していた。問題のことが起った10日程前にN子の家にS男が遊びに来た折り、「愛しあっているのだから……」と性関係を迫って来たが、「突然そう言われても……」と断った。

それから何日か、S男は不機嫌であった。N子の近くに住む小学校時代から親しいT子が「N子、S男には気をつけた方がいいわよ。何人もつきあってエッチしているらしいから」とアドバイスして来たのもこの頃であった。N子はこれを聞いて「そうね。私とN男はそんなつきあいじゃないから」と軽く受け流していた。学校帰りS男の家に寄り、新作のCDを聴くことになった。S男の御両親は留守だった。最初は応接間であったが途中からS男の個室に移動した。彼に抱きしめられベットにつれこまれた時、N子は多少抵抗したが、S男のペースで進行した。それ以後週1回両親の帰宅前にS男の家で2人は性関係をもった。最初及び始めの2ヶ月はコンドームを使っていたが、以後使ったり、使わなかったりするようになった。N子が「必ずつけるように」S男に言っても、「ドンマイ、ドンマイ」と言って使ってくれないこともあった。このような経過でN子は妊娠する結果となった。

どの時点でどうすれば妊娠を防ぐことができたのであろうか？ ケース提示の途中で、「このような状況になった時、あなたならどうする？」と生徒に発問し、適切な意志決定行動選択のトレーニングをすることもできる。

ケース提示有無(ⅡとⅠ)による効果対比

(前) 女 N=214				(前) 男 N=209			
A	B	C	D	A	B	C	D
36.9	31.8	23.8	7.5	8.1	30.2	43.5	18.2
(後) Ⅰ群 N=82				(後) Ⅰ群 N=81			
42.7	41.5	8.5	7.3	16.0	48.2	22.2	13.6
(後) Ⅱ群 N=132				(後) Ⅱ群 N=128			
68.2	25.7	3.8	2.3	39.8	40.6	14.9	4.7

自己コントロールにあたるAの比率は、女子で講演前の36.9%からⅠ群で42.7%であるのに対し、Ⅱ群で68.2%と成果が認められた。男子では講演前が8.1%と低く、Ⅰ群は16.0%、Ⅱ群39.8%で女子と差異を示している。